

先生を偲ぶ



工学部 建築学科
准教授

山田 幸司 (享年40歳)

謹んで、故山田幸司准教授にお別れの言葉を申し上げます。

山田准教授急逝の報に接し、大同大学全体が、深い悲しみにつつまれております。在りし日の山田先生を、お通夜の席にて奥様が一言でお

人柄を表現しております。「故建築家山田幸司は毒舌と笑いが絶えない人でした。」この言葉の裏側に秘められた実直に建築や教育に取り組む姿勢が先生の本質でした。毎日刻みの御多忙なスケジュールにもかかわらず、学生を見かけると笑顔で声をかけながら、親身に指導をされる姿が今も胸に焼き付いて離れません。先生の叱咤、激励が、どれほど多くの学生たちに新しい分野に挑戦する勇気と困難に立ち向かう奮起を与えたことか。また、建築関係者を先生独自の視点で紹介する「建築系ラジオ」においては、積極的に他大学や建築家の方たちとの連携・交流をはかり、本学の発展と広報に努めてこられました。これから、多方面での活躍が期待され

ていた矢先の急逝が残念でなりません。何事にも前向きな先生の姿を見ることができないと思うと、万感胸にこみ上げるものがあります。まだ、信じがたい先生の訃報を前にして、この悲しみから抜け出すにはなお多くの時間を必要とするでしょう。しかし、そんな私たちの姿を一笑にふされる豪快な先生の姿が目には浮かびます。少し後になりますが、そちらの世界で先生が設計された緑色の建築で埋め尽くされた都市の解説を一献傾けながら伺いたいと思います。

山田幸司准教授の御冥福を心からお祈りし、謹んで哀悼の意を申し上げます。

(工学部 建築学科 教授 宇野 享)



工学部 都市環境デザイン学科
不動産マネジメント専攻 客員教授

高橋 太郎 (享年55歳)

本学の高橋太郎客員教授が、平成21年7月1日に病氣のため逝去されました。

高橋太郎先生は、昭和52年3月に名古屋大学法学部法律学科を卒業された後、愛知県庁に奉職され、農林部財務課、耕地課、農地管理課

に約12年間務められました。愛知県職員時代に身に付けた業績・知識を基に、国民の社会生活上の医師として、国民のために役立ちたいと思われ、昭和62年に司法試験に合格され、弁護士資格を取得されました。

高橋太郎先生は、平成7年4月に法律事務所を開設されましたが、平成15年1月以来、本学大学院工学研究科建設工学専攻および都市環境デザイン学専攻の特別講義の講師として、建築・土木工事と法令の規制・住民交渉・住民運動などのテーマで、不定期に集中講義を担当していただきました。

平成20年4月からは、本学工学部の客員教授になっていただき、平成21年度に開設した都市

環境デザイン学科不動産マネジメント専攻の教育・研究の在り方について、高橋太郎先生の業績と知識を基に助言をいただきました。そして、同専攻の開講科目の内、「環境法規」と「民事紛争論」の講義を担当していただくことになっていました。

高橋太郎先生が亡くなられたことは、都市環境デザイン学科にとって大きな痛手です。高橋太郎先生は、難解な法律に関する事例を笑顔と穏やかな口調で分かりやすく説明されました。もう二度とあの授業が聞けないと思うと残念でなりません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

(工学部 都市環境デザイン学科 学科長 大東憲二)

人事

- 退職 [大学]〈教育職員〉(H21.6.17)
岩木 昌卓 (情報学部 情報デザイン学科 講師)
- [法人本部]〈事務職員〉(H21.7.31)
川瀬 年雄 (法人本部 経理室 主任部員)
- [大学]〈教育職員〉(H21.9.30)
鈴木 桂輔 (工学部 機械工学科 准教授)
- 採用 [大学]〈教育職員〉(H21.10.1)
渡部 裕子 (情報学部 情報デザイン学科 講師)
- 昇任 [大学]〈教育職員〉(H21.10.1)
早川 謙二 (情報学部 情報システム学科 准教授
兼任 情報学部 情報学科 准教授)
- 委嘱 [大学]〈客員教授〉
加藤 和雄 (任期:H21.10.1~H22.3.31)
- [大学]〈客員准教授〉
鈴木 桂輔 (任期:H21.10.1~H22.3.31)

編集後記

9月5日(土)、「伊勢湾台風50年 市民の集い」を開催。滝春キャンパス一体が、およそ4,000人の地域の方たちで埋め尽くされました。その光景は大学祭とはまた違っていました。「大学に初めて入った。立派ですね。」とご年配の方に声をかけられることが何度かありました。みなさん何か、ワクワクと嬉しそう。災害時の避難場所である本学を再認識していただくよい機会になったと思います。また、南区唯一の大学として、キャンパス自体が地域貢献のツールとして大きな可能性と意義を秘めていることをこのイベントで見つけたようにも思えました。

No.69 2009.11 DAIDO CAMPUS

02 学生の勇士! / 05 DU CAFE. @ / 07 新刊書出版 / 07 DU CAFE. @ / 08 OPEN DAIDO / 09 新刊書出版
10 学科・専攻NEWS / 14 トコトン先生 / 21 やるじゃんトビックス!! / 24 人事 / 24 DUスケジュール



写真提供：アルバム委員会

DU スケジュール



12月

- 1(火) 第2回女子学生就職ガイダンス :3年生
- 7(月) 第12回就職ガイダンス :3年生(〜12/11)
- 15(火) 第7回就職ガイダンス :2年生(〜12/18)
- 23(水) 特別奨学生・M方式入試 天皇誕生日
- 28(月) 冬季休業開始(〜1/4)

1月

- 1(金) 元旦
- 4(月) 冬季休業終了(12/28〜)
- 5(火) 第13回就職ガイダンス :3年生(〜1/8)
- 6(水) 第8回就職ガイダンス :2年生(〜1/8)
- 7(木) 成績報告開始OCR(〜2/3) Web(〜2/10) 成績単位票(OCR)配付
- 11(月) 成人の日
- 15(金) クラブ活動報告会
- 16(土) 大学入試センター試験
- 17(日) 大学入試センター試験

2月

- 2(火) 追・特追試験(〜2/4)
- 10(水) 卒業研究発表(〜2/16)
- 11(木) 建国記念の日
- 17(水) 修士論文発表会(〜2/19)
- 23(火) 成績・履修状況一覧表配付 (指導教員)
- 24(水) 試験結果通知書配付(〜2/25) 異議申請受付(〜2/25) 学修指導期間(〜3/26) 中期・外国人・委託学生・再入学入試

3月

- 1(月) 大学院(修士)入試
- 2(火) 大学院(博士)入試
- 3(水) 成績確定日
- 18(木) 学位記授与式 卒業パーティー
- 21(日) 春分の日 春季休業開始
- 22(月) 「春分の日」の振替
- 23(火) 履修登録期間(〜3/26) 履修ガイダンス(〜3/26)



ハンドボール部

おめでとう！ハンドボール部
東海学生秋季1部リーグ戦2009、優勝！



9月5日(土)より、本学体育館等で開幕した秋季リーグ戦。彼らは7試合を戦い抜き見事、5勝1敗1引き分けの成績で優勝。創部4年目の2003年春季以来、秋季としては初の東海リーグ制覇を果たしました。

最優秀選手賞に比嘉傑君(工学部 機械工学科 4年)、得点王に小田淳平君(工学部 建築学科 4年)、優秀選手賞に小田淳平君(同)、構田雄介君(同)、畑地俊介君(工学部 ロボティクス学科 4年)がそれぞれ選ばれました。

10月29日(木)の中日スポーツには「日本一を狙う、大同大ハンドボール部」と大きく掲載されました。

【結果】1部優勝 大同大学 (5勝1敗1引)

9月 5日(土)	大同大 28(12-12 16-09)21	愛知大
9月 6日(日)	大同大 27(13-12 14-15)27	朝日大
9月12日(土)	大同大 43(21-07 22-06)13	岐聖大
9月13日(日)	大同大 27(12-10 15-09)19	愛教大
9月20日(土)	大同大 29(09-12 20-13)25	名城大
9月21日(日)	大同大 30(12-07 18-18)25	中京大
9月27日(日)	大同大 24(14-12 10-14)26	中部大

監督:佐藤社一郎准教授(教養部 保健体育教室)のコメント

長く優勝から遠ざかっていたが、ようやく立て直しました。小学生時代から地元のハンドボールスクールで指導した子が本学に入学し、活躍してくれたことも嬉しい。

主将:比嘉 傑君のコメント

リーグ戦序盤、気の緩みから勝ちを逃しました。試合後、はじめて部員だけで集まり、お互いの気持ちをぶつけ合いました。その結果を監督に伝え、受け止めていただいたとき、今までに増して、チームがひとつになれたように思います。このチームで優勝できたことが本当に嬉しいです。チームワークと持久力はどこにも負けない自信があります。今は、このメンバーで1試合でも多く試合がしたい、ただそれだけです。

全日本インカレ、おもいっきりプレーします！



バレーボール部

1年ぶり、1部リーグ復帰！

9月19日(土)に開幕した東海大学バレーボール秋季2部リーグで、優勝をすることができました。

10月31日(土)には、1部8位との入替戦で勝利することができ、1年ぶりに1部リーグに復帰することができました。選手諸君が「1部復帰」のプレッシャーの中、チーム一丸となって試合に臨んだ成果(結果)だと思います。数名怪我人もいましたが、試合に出場し頑張ってくれました。

今後は、更に1部上位をめざし精進したいと存じます。

部長:川戸 和英
(情報学部 情報デザイン学科
メディアデザイン専攻 教授)

監督:鹿島 孝之
(キャリア支援室 室長)

【結果】2部優勝 大同大学 (5勝1敗)

大同大	3-2	愛知教育大
大同大	3-0	滋賀大経済
大同大	3-0	名古屋大
大同大	2-3	岐阜経済大
大同大	3-0	岐阜大
大同大	3-1	静岡大

【入替戦結果】大同大学 1部昇格

大同大	3-0	愛知産業大学
-----	-----	--------



第7回全国学生フォーミュラ大会

DAIDO FORMULA PROJECT 2009

9月8日(火)~12日(土)、静岡県にある「ECOPA・小笠山総合運動公園」で「第7回全国学生フォーミュラ大会」が開かれた。今年度は、過去最大の規模で国内外から80チームが参加し、「静的競技」と「動的競技」を競い合った。

大同大学フォーミュラプロジェクトは今回で6度目の挑戦であり、05年度以来、全競技の完走が出来ていない。今までの悔しさを胸に秘め、今大会は、ステアリングから手を離さず、ギアシフト操作が可能な「ノバルシフト」の採用や、エンジンの燃料噴射制御プログラムの最適化による操縦性の改良などを行い、完走を目指した。



今回の大会では、大会のルールであるレギュレーションの大幅な変更があり、特に「静的競技」の一つであるコスト審査に関する変更が我々を苦しめた。

昨年度、コスト審査部門で1位を獲得しているのに、今年度も一番力を注いだ部分でもあったが、まったくの0からのスタートとなる変更戸惑い、最終的な順位は7位に留まってしまった。

4分の3ほどしか通過できない厳しい車検をクリアし、「動的競技」へ進んだ。

2日に行われた、加速性能を競う「アクセレーション」、コーナリング性能を競う「スキッドパッド」では、好タイムを出し、最終競技である「エンデュランス」へ。22周の耐久走行を競うのだが、その際、コンピュータ系の故障と思われるトラブルが発生し、15周目でエンジンがストップ。そしてリタイヤとなってしまった。今年も全ての競技での完走はできなかった。



しかし、車輛の安全性に関する大変厳しい検査を早期に通過し、各競技にスムーズに参加でき、全ての競技でプロジェクト史上最高のラップタイムを獲得することができた。毎日休みなく作業場である知多分校へ通い、泊り込みで作業することも多々あった。だからこそ得られたものは大きい。この成果を次につなげていきたい。

(工学部 機械工学科 機械工学専攻4年 鈴木 麻仁)



ダンス部

各大会で活躍！

中部大会は名古屋大学、名城大学、愛知学院大学、愛知大学と本学のダンスで競われます。新人戦は1年生後期から2年生前期までで競われます。この大会で1位や2位に入るとは、将来3年生や4年生になった時が楽しみです。一方、団体戦は1年生から4年生まで全員で競われますので、練習期間の差から上位はほとんど4年生となります。その大会に2年生で入るとはこれも将来が楽しみです。西日本戦は、愛知勢と大阪大学や京都大学等の関西勢9大学との大会であり、新人戦の出場カップル数は87カップルでした。この大会で上位に入るとは、いままで久しく本学の選手にはなかったことです。

顧問:三品 善昭
(情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻 教授)



第43回 秋季西日本学生競技ダンス選手権大会 モダン戦 新人戦

開催日時:10月25日 開催場所:大同大学体育館
池富勇輝君(工学部 機械工学科 機械工学専攻1年) フルツ2位 クイックステップ2位 総合2位
吉田陵平君(工学部 建築学科 建築専攻1年) 総合11位

第45回 中部日本学生競技ダンス選手権大会 八種目戦 団体戦の部

開催日時:9月13日 開催場所:津島市文化会館
岩田宗也君(工学部 機械工学科 先端機械工学専攻2年) 12位

第45回 中部日本学生競技ダンス選手権大会 八種目戦 新人戦の部

開催日時:9月13日 開催場所:津島市文化会館
池富勇輝君(工学部 機械工学科 機械工学専攻1年) フルツ1位 クイックステップ1位 ルンバ1位 総合1位
松村 光君(工学部 ロボティクス学科1年) フルツ2位 クイックステップ2位 ルンバ2位 総合2位
吉田陵平君(工学部 建築学科 建築専攻1年) 総合11位

第45回 中部日本学生競技ダンス選手権大会 種目別戦 新人戦の部

開催日時:6月21日
岩田宗也君(工学部 機械工学科 先端機械工学専攻2年) タンゴ1位 フォックストロット2位 総合1位



学生会執行委員会主催

体育祭 DUP 新聞部投稿記事

10月15日(木)と16日(金)に本学石井記念体育館と滝春グラウンド、白水公園において「体育祭(今年度より、体育大会から改名)が学生会執行委員会主催で開催されました。

競技は一日目がキックベース・バドミントン・サッカー。二日目はバスケットボールとアスレチック企画サブシューター・スポーツチャンバラを開催しました。

参加数は前回に比べるとやや少ないものの381人が集まり(アスレチック企画は除く)、青空の下、さわやかな汗を流していました。選手への声援もたくさん聞こえ、各競技白熱した場面が多く見られました。最後の表彰式では上位チームが主催者から賞品を受け取り、歓喜に包まれていました。

バスケットボールに参加した一年生に感想を聞くと、「試合には負けてしまったが、大学に入り運動する機会が少なくなったのでこのようなイベントは体が動かして楽しかった。」と笑顔で話してくれました。



成績結果

10/15

サッカー…11チーム(101人参加)
1位 サッカー部
2位 ばくだん
3位 ハシッテホシーノ

バドミントン…20チーム(77人参加)
1位 ブラックなかつんず
2位 なかつんず
3位 XXIV

キックベース…9チーム(70人参加)
1位 ちびっこギャングとゆかいな仲間たち
2位 TOMOYA OKAJIMA
3位 悠政、ドラ2…満貫!

10/16

バスケットボール…19チーム(133人参加)
1位 優勝候補
2位 天然水
3位 中野ファミリー

ドッジボール…中止

アスレチック サブシューター…92人参加
スポーツチャンバラ…270人参加



クラブ委員会主催

第46回 錦杯学内レガッタ大会

11月1日(日)、庄内川ボートコースで、クラブ委員会主催 第46回 錦杯 学内レガッタ大会を開催しました。

今年度は一般の部12チーム、クラブの部18チームの合計30チーム、150人の競技参加者が集まりました。現役学生のクラブチームや研究室(ゼミ)チーム、OB・OG・教職員チームとさまざまな方にエントリーいただき、全チームが優勝めざしてがんばっていました。

今回は、新型インフルエンザの影響で出場

メンバーが変わり、練習も満足にできず、当日のレースをむかえたチームが多く、どうなることかと思いましたが、逆にそのおかげでチームの結束が強まり、白熱したレース展開になりました。

また、雨で途中中止という残念な大会となりましたが、参加者の心に残る、とても良い学生イベントになったと思います。

委員長: 小川 龍一(工学部 ロボティクス学科3年)

成績結果

一般の部

1位 山田錦(吹奏楽団OB・OGチーム)
2位 大同インテリジェンス(教職員チーム)
3位 往年のヒヨコ
(モーターサイクルスポーツクラブOB・OGチーム)

クラブの部

1位 チームメガネっ子
(モーターサイクルスポーツクラブ)
2位 FORUTUNA-PARTICOLARE
(モーターサイクルスポーツクラブ)
3位 我々衆(吹奏楽団)



ロボット研究部

ガンダム生誕 30周年祭で大活躍!

西堀賢司教授(ロボット研究部顧問/工学部 ロボティクス学科)と、ロボット研究部の学生たちが、「未来へつなぐガンダムDNA」と題して、澤岡昭学長とガンダムの監督である富野由悠季氏らが語り合ったトークセッションに負けず劣らず、ステージ上や特設ブースで大活躍!二足歩行ロボットのバトルの実演と解説を行い、会場を大いに盛り上げていました。西堀教授の解説で、ロボット研究部のロボファイト8優勝者・大竹章司君と、ロボファ



▲特設ブースでのロボット実演

イト9優勝者・小出真澄君(共にロボティクス学科 3年)が対戦。ジャッジは、同じくロボット研究部の松山祥紀君(工学部 ロボティクス学科 4年)が務めました。

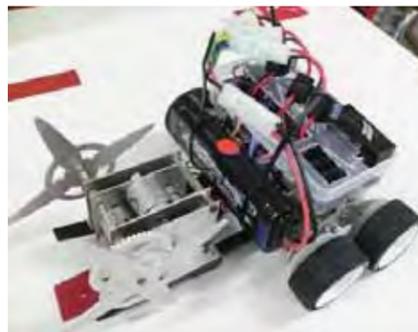
ロボット研究部は総動員で、サーカスロボットや、バトルロボットの实演を行い、3日間のイベントを大いに盛り上げ、大同大学のアピールにも大きく貢献していました。



▲ステージで解説する西堀教授

Robot Championship“BRAVE”で 準優勝!

ロボット研究部は、9月13日(日)に川崎市産業振興会館で開催された第8回Robot Championship“BRAVE”に5台のロボットで出場し、竹内亘君(工学部 ロボティクス学科 2年)がロボット「すかーれっと」を操縦して見事 Wrestle Quadトーナメントで準優勝しました。今回は全国から32台のロボットが集まり、平子直人君(工学部 ロボティクス学科 1年)もベスト8入りしました。



▲すかーれっと

学長賞、おめでとう!

2足歩行ロボットの全国大会「ロボファイト9」SRC部門 1.8kg以下級で優勝した松原君と、1.8kg超級で優勝した小出君。本学の名誉を高めた功績が評価され、11月10日(火)、澤岡昭学長より学長賞が授与されました。



▲松原広司君(工学部 ロボティクス学科4年) 小出真澄君(工学部 ロボティクス学科3年)

●バイクで西日本一周の旅

藤田 明大(工学部 電気電子工学科3年)

大学2年になり、それまでバイクに興味が無かった僕が、ふとした事で興味を持つようになった。

同じ学科の友人とお酒を飲みに行ったときのことである。彼がバイクで日本一周する計画をしていることを知った。そして、酔った勢いで自分も「行きたい!」と言ってしまった。(ちなみにその時点ではバイクどころか免許すら持っていなかった)。しかし、一度言ったことなのでもう後には退けない。結局、2年の夏休みに沖縄まで西日本を一周することになった。

8月、大学前を出発し、下道を使って日本海沿いを走り、九州では東側を通って鹿児島まで行った。そしてフェリーで沖縄へ。約3週間、ひたすら走る日々だった。車の少ない朝方に多く走り、昼は、観光をしたり、



DAIDO UNIVERSITY CAFE.



疲れている日は“道の駅”で昼寝をしたり。泊まる所を探すのには苦労し、ほとんどネットカフェや“道の駅”で寝泊りした。

出発から2日目、雨が降る中、走っていて転倒。身体は無事だったがバイクが破損した。直すのに部品が足りず、あちこち探し回らなければならないハプニングもあった。バイクの不調には何度も苦労させられたが、旅の途中では、バイクの修理を手伝ってくれた人やご飯をご馳走してくれた人、京都から自転車で沖縄へ行こうとしていた人など、いろいろな人に出会い、助けてもらった。そんな旅の様子を、アップルケアセンターでお世話になっているバイク好きな西出先生に写メールで報告したりもした。

そして無事に旅を終え、ゴール地点である大同大学に辿り着いた。出発の時にも送り出してくれた中井先生(アップルケアセンター)

が出迎えてくれたが、僕はヘトヘトだった。その時中井先生から生還したお祝いにご馳走してもらったゴビーホールのカツカレーは今でも忘れられないほどおいしかった。この旅を通して、たくさんの人と出会い、たくさんの人に親切にしてもらい、助けてもらったので、今度は僕が困っている人を助けてあげようと思う。そして、この旅で活躍し、「サイクロン号」と名付けられた自慢のマシンで、次は北海道までの東日本一周をしたいと思っている。



▲藤田君

学生の勇姿!

自動車部

河村真太郎君 (工学部 機械工学科 機械工学専攻 4年) 全日本学生ドリフト王座決定戦への想い、手紙に綴る。

2001年から夏休みの時期に開催されている「全日本学生ドリフト王座決定戦」、通称「学ドリ」。その大会に河村君は4年連続出場。表彰台の真ん中に立つことを目標に挑戦してきた4年間を振り返り、大会を主催する『ドリフト天国』編集部に感謝の手紙を送った。



川村君



勝ちにこだわられたのも、仲間と心癒されたのも、すべては「学ドリ」があったから。たくさんライバルに出会えたのは、優勝以上に価値あることなのかもしれませんね。

大河大学 河村真太郎

8月24日 午後4時24分 河村真太郎の学ドリは、崖のスピンドで完全に暴走した

台風18号で、体育館が…。学生、浸水除去に活躍。



10月8日(木) 午前5時過ぎ、知多半島付近に上陸した台風18号の影響で、本学石井記念体育館は浸水の被害を受けました。

その除去作業に、守田道史君、矢澤良哲君、山口雅生君(いずれも、工学部 建築学科 建築専攻1年)と小田祐輔君(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻1年)、そしてハンドボール部員が協力してくれました。

矢澤君は「休講だろうと思っていたが、学校が気になり来てみると、体育館のエントランスがひどいことになっていました。管理人さんが困った様子だったので手伝いました。私以外にも数人が、ズボンの裾を上げ、モップや雑巾を使って手伝っていました。やはり困っている人がいたら、手伝う。ましてや、自分たちの学校です。少しでも役に立ててよかったです。」と話してくれました。



新刊書出版

山田幸司 准教授 (工学部 建築学科)

『VectorWorksで学ぶ ラクラク建築パース作成マニュアル』



VectorWorksの6つのコマンドで、プレゼンやコンペに勝てるパースのテクニックを伝授。これから3Dをはじめようと考えているビギナーが立派な3Dを作成できるよう、また、すでに3Dを修得している人においても、さらにパワーアップした3Dが作り出せるよう構成されており、各大学で教材として利用されているプログラムでもあります。

山田准教授が2004年から書きためていたものをまとめ上げた一冊。これに従えば、ほぼ全員3DCADが使えるようになる内容で、通常のマニュアル等では記載されていないテクニックも多く記載されています。



発行所：株式会社エクスマレッジ
発行日：2009年7月
定 価：2,520円(税込)

DAIDO UNIVERSITY CAFE.



DU CAFE.

●地球のどこかで～大学生一人旅～ 第1回 カンボジア編 09年夏 山口 雅生(DUP/工学部 建築学科 建築専攻1年)

今回は1ヵ月かけて、タイ・カンボジア・ベトナム・ラオスを旅した。今回はその中で一番印象が強かったカンボジアについて少し話したいと思う。



▲どこかの地区の子供達。みんな笑顔がまぶしい。

カンボジアの僕のイメージは気候の暑さ、物価の安さ、カンボジア人そしてアンコールワット。最近は治安もよくなり経済も比較的伸びているこの国だが、貧富の差は歴然で国境のゲートをくぐれば子供が物乞いにやってくる。彼らに住む所はあるだろうか。田舎に行けば内戦時に埋められた地雷もあるし、水道がないところも珍しくない。

シェムリアップ～世界遺産と子供たち～

シェムリアップはアンコールワットで有名な街だ。街は静かでバンコクから来た僕にとっては今回の旅ではじめて一息つけた所



▲日の出のアンコールワット。カンボジアの象徴でもあり歴史だ。

活の糧であり、子供の遊び場になっていた。最近新しいゴミ集積場ができたようだ。すこしはゴミの問題が解決するとい。ちなみに写真は旧ゴミ捨て場で、新ゴミ捨て場は行ったが政府の許可がないと入れなかった。ゴミを捨てるにも許可が必要なのだ。一日ゴミを捨ててもあまりお金にはならない。ゴミ山から見える高級ホテルを見て彼らは何を思うのだろうか。

今回の旅では、貧困・芸術・文化・その国の人々…いろいろなことに触れた。それは、自分と向き合い考える材料にもなり、少し自分の考えがまとまった気がした。旅は私に考える時間と刺激を与えてくれた。皆さんも貴重な学生生活の一部を海外で過ごしてはいかだろうか。



▲ゴミ山で遊ぶ子供達。健康への影響が心配される。



～災害に学び 災害に備える～ 『伊勢湾台風50年 市民防災の集い』

日時/2009年9月5日(土)
場所/大同大学 滝春キャンパス
主催/伊勢湾台風50年 市民防災の集い実行委員会



9月5日(土)、大同大学滝春キャンパスで「伊勢湾台風50年 市民防災の集い」を行い、およそ4,000人の参加者が集まりました。

【開会式】



村松克己実行委員長より開会の挨拶があり、イベントは始まりました。



森研司南区長は開催にあたり「これから襲ってくるかもしれない自然災害について、『自分はどうするのか』を考え、語り合う機会としたい。」と挨拶されました。

【シンポジウム 災害に強いまちづくりを考える】

南区役所・大同大学主催のシンポジウムを開きました。

第1部は、2009年に中日文化賞受賞、中日新聞で小説「川のある街 伊勢湾台風物語」を連載している作家 清水義範さんが講演。一カ月にわたった取材や作品づくりの様子等を紹介されました。

第2部では、被災体験者の今井正子さん、岩見田健さん、田中保三さんをパネリストに迎え、水災害の専門家として鷲見哲也准教授(本学工学部 都市環境デザイン学科)が加わり、コーディネーターを大東憲二教授(同)が務め、パネルディスカッションを行いました。まとめとして、災害発生時、自治体の機能「公助」は破綻



▲清水義範さん

するかもしれないし、また自ら身を守る「自助」も限界がある。

やはり近所同士で助け合う「共助」の大切さを再認識して日々生活していくよう、会場にみえたおよそ250人の聴講者に訴えました。



▲大東憲二教授 ▲今井正子さん ▲岩見田健さん



▲田中保三さん ▲鷲見哲也准教授

【屋外ステージ】

屋外ステージでは、地域のさまざまな団体が踊りや歌などを披露しました。

- 大同大学吹奏楽団の演奏
- 小林フラスクールのハワイアン演技
- ムーンピーチの歌と演奏
- 倭人会の太鼓演奏
- いづみ会の創作踊り
- 石田音人さんの胡弓演奏
- いりやあせ南都のよさこい踊り
- 大同大学大学祭実行委員会による、ビンゴゲーム
- 千鳥学区民謡同好会などによる、民謡踊り



▲大同大学吹奏楽団の演奏 ▲倭人会の太鼓演奏

▲いりやあせ南都のよさこい踊り

【屋内イベント】

屋内には、21ブースもの展示がありました。

- 災害時に役立つロープワーク
- タオルでバンダを作る
- 防災用品でぬいこんだ「ずきん」の製作
- パネル展示
- 竹笛・風車・割りばし鉄砲等の制作
- LEDの防災グッズ展示
- 家具転倒実験・模型家屋倒壊実験



▲防災用品でぬいこんだ「ずきん」の製作 ▲模型家屋倒壊実験

▲災害時に役立つロープワーク ▲家具転倒実験

【芝生広場イベント】

模擬店23店舗、フリーマーケット57店舗が、出店。



▲超震車体験

▲模擬店

▲フリーマーケット

夏休み わくわく 理科体験スクール (戦略的大学連携支援事業)

8月1日(土)、2日(日)と8月8日(土)、9日(日)の2週4日間にわたり、夏休みわくわく理科体験スクールが本学滝春校舎で行われました。

この理科体験スクールは、文部科学省に採択された戦略的大学連携支援事業「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」の一環として実施した講座で、「電気理科実験(愛知久史准教授)」「鉄さびの生まれたてはなあに? (酒井陽一教授)」「ミニロボットでサッカーしよう! (西堀賢司教授、坂倉守昭教授、橋口宏衛講師)」「光と色の秘



密を探ろう! (西村政信講師)」「太陽の光でコピーしてみよう! (高山努准教授)」「恐竜ロボットを組み立てて遊ぼう! (西堀賢司教授、坂倉守昭教授、橋口宏衛講師)」「燃料電池の製作体験授業(長谷川郁司研究員)」「地球環境に優しい発電技術(佐藤義久教授)」などの計10講座に小・中学生、保護者合わせておよそ200人が集まりました。

はじめに、講座を企画運営している、戦略的大学等連携室司会の下、水澤富作副学長(工学部 都市環境デザイン学科 教授)が、理科体験スクールの趣旨と、これからのものづくりに興味をもってくださいと挨拶し講座がスタートしました。

講座は簡単なクイズで、それぞれの理科実験に関する知識を深めてもらった後、ロボットの組み立てや、燃料電池セルを素材から作る実験、太陽光で模様や文字を写し取る実験、LEDを基盤にハンダ付けして



行う光の三原色の実験など普段体験できない実験を先生の話聞きながら、一生懸命トライしている姿が見受けられました。

参加した人たちの感想を聞くと、「初めてハンダごてを使って作業しました。子ども共々いい経験をしました」「金属みたいなのが溶けてすごかった」「完成して動いたからうれしかった」など、とてもうれしそうな意見が多数寄せられました。



新刊書出版

嶋田喜昭 准教授 (工学部 都市環境デザイン学科)
中部地域公共交通研究会 編著

『成功するコミュニティバス』 —みんなで創り、守り、育てる地域公共交通—

約5年前から、嶋田准教授を含む若手の研究者と実務者が、中部圏の交通の将来について議論の場を設け、最新の地域公共交通に関する研究動向、実務を遂行する上での課題、世界中の優れた交通システムなどについて勉強を重ねてきました。その幅広い議論の中で、模索したどり着いた内容が本書には盛り込まれています。

地域の求める公共交通をいかに実現し、守り育てていくのか。改正道路運送法や地域公共交通活性化・再生法を踏まえ、デマンド運行などの新たな技術を織り交ぜつつ、データ収集、サービス水準と費用・需要との関係、地域の参画方法など現場で生かせる知識が網羅されています。

発行所: 学芸出版社
発行日: 2009年11月
定価: 1,995円(税込)



佐藤義久 教授 (工学部 電気電子工学科)

『電気エネルギー概論』

電気・電子・情報系学科の大学学部生向けテキストシリーズの一卷。現インターユニバーシティシリーズを、現在の大学の講義内容・実態に合わせて内容構成を見直し、発展させています。昨今の資源枯渇、環境問題にふれつつ、エネルギーの発生・変換、伝送、貯蔵・利用技術についてわかりやすく解説。各章末にはまとめ・演習問題もあります。

佐藤教授は、本書の「6章 力学的エネルギーと水力発電のしくみ」、「10章 再生可能エネルギーを用いた種々の発電システム」、「12章 電気エネルギーの貯蔵」を執筆しています。

発行所: オーム社
発行日: 2008年12月
定価: 2,415円(税込)





工学部 建築学科

建築設計 I / インテリアデザイン設計 I 一般住宅設計 発表会 (Dラーニング)

7月30日(木)、白水キャンパス 製図室で、発表会を開きました。これは、6月11日(木)より始まった、建築設計I/インテリアデザイン設計Iの課題「一般住宅の設計」の最終授業で、実際に家の建て替えを検討している、南区内にお住まいの木村さん夫妻とお子様3人を招いて、学生たちがアイデアを図面と模型を用いてプレゼンするもの。ホンモノの依頼者を前にして、学生たちは緊張しながらも、自分のアイデアを伝えようと一生懸命。お子様たちにもわかるように、模型を分解して説明していました。

およそ100人のなかから選ばれた、30人の学生たちの発表が終わると、表彰審査へ。木村さんご一家を交え、本学教員と審査しました。優秀作品10選のひとつに選ばれた、佐合孝文君(建築専攻2年)は、「依頼主を前に緊張したが、決められた条件のなかで自分の考えを入れ、それを実際にプレゼンできたことは、本

当に面白かった。自分のデザインが実現するか、楽しみ」と目を輝かせていました。

「3年以内には、建て替えを実施したい。皆さんのアイデアを参考に近い形で実現させたい。今日は皆さんの一生懸命さが伝わってきて、本当に嬉しかった。設計のアイデアにはさまざまな切り口があることを再認識でき、貴重な経験になりました」と、実は一級建築士の木村さん、最後に学生たちへこう話されました。

なお、この発表会の様子は、8月5日(水)毎日新聞朝刊に掲載されました。

後日、木村さんからお礼状が届きました。(一部を紹介) 当夜は、家族で家の話で持ちきりでした。子供達も楽しかったようで、3階の家にこだわっています。

小2の長女は、家にある住宅の雑誌を見ていましたし、大学の建物を見て、小学校より



▲プレゼンテーションの様子

素敵だと話していました。子供達にとっても良い経験と、思い出になったと思います。

妻もものすごく面白かったようで、プランの説明と作品を理解するのに一所懸命で、提案者の顔を覚えていませんでした。

私もそれぞれのプランを理解するのに必死でした。提案を聞いているのが、本当に楽しかったです。

妻との話で、前半の建築専攻の学生提案は生活空間として面白い提案が多く、後半のインテリアデザイン専攻の学生提案は、特徴がよくでていて、柔軟で面白い提案が多かった印象が残っています。私も妻も、気になっている提案がいくつかあります。

提案資料のコピーをいただけるのとことですので、もう一度、じっくり家族で考えたいと思います。

本当にありがとうございました。

山田幸司 研究室

積層段ボールによる国宝茶室如庵の写しを制作・展示



▲研究室全体をつかって制作・作業している様子



▲ダンボールでリアルに再現された如庵の内装

5月27日(水)から制作を始め、およそ4ヶ月。山田研究室のメンバーと有志の建築学科3年生で、実物大の積層段ボールによる国宝茶室 如庵を造り上げました。「実物大の迫力を楽しみに無我夢中で作業しました」と参加メンバーは作品を前に、満足そう。

如庵とは、元和4年(1618)に、織田信長の実弟織田有楽斎によって、京都市の建仁寺の塔頭である正伝院が再興された際、建造された茶室である。

この作品は、10月14日(水)から18日(日)まで、名古屋市区の「like air + water」で展示されました。

なお、今後においても「INAX GINZA ギャラリー」「ハウススクエア横浜」など数箇所で開催される予定です。

山田幸司 研究室

SUPER CRITIC 2009



7月24日(金)、白水キャンパス 製図室・学生ホールにおいて、山田准教授進行で「SUPER CRITIC2009」が開催されました。ゲストに五十嵐太郎氏(建築評論家・東北大)、南泰裕氏(建築家・国士館大)、松田達氏(建築家)、村上心氏(写真家・相山女学園大)を迎えての豪華な会となりました。

第1部 CRITIC は学生が建築課題(小学校の設計)のプレゼンテーションを行い、各先生方が講評。第2部は五十嵐氏、南氏、松田氏のレクチャー。第3部は建築系ラジオの公開収録、そして懇談会と展開されました。

ホンモノのプロたちに触れたこの時間。参加した学生たちは、各々が大きな何かを得たに違いない。その事実は顔つき・目つきで想像ができました。



▲プレゼンテーションの様子

工学部 都市環境デザイン学科

堀内将人 研究室

齋藤知一さん(大学院2年)

土木学会 全国大会 2年連続で学術講演会優秀講演者に選ばれました。

9月2日(水)から4日(金)の3日間、福岡大学で土木学会 平成21年度全国大会が開かれました。大会テーマは「これからの日本の社会と土木～利他行の土木～」。

大学や企業の研究者およそ3000人が発表するこの大会に、齋藤さんもエントリー。「アンチモン除去吸着剤としての水酸化鉄の有効性に関する実験的検討」と題した論文を発表し、見事第64回年次学術講演会優秀講演者に選出されました。

齋藤さんは昨年度の大会でも論文「工場・旧鉱山周辺環境中アンチモンの汚染調査と健康リスク評価」を発表し、第63回年次学術講演会優秀講演者に選出されています。

指導教員の堀内教授は「2年連続で選ばれたことは、大変価値があります。」と齋藤さんの努力を誇らしげに話してくれました。



▲発表する齋藤さん



大東憲二 研究室

「CASE2・三方五湖学生環境サミット」に参加

川崎健太君(学部4年)

中日新聞「学生の新聞」ページに掲載

昨年設立された、学生が主体となって環境にさまざまな角度からアプローチしていく団体「CASE」。年1回、「人と地球の付き合い方」をテーマに「学生環境サミット」を開催しています。今年は9月1日(火)～7日(月)の7日間、福井県にある三方五湖で「CASE2・三方五湖学生環境サミット」が開かれました。開催地となった三方五湖は、ラムサール条約に登録されている湿地の一つ。しかし近年、三方五湖やその周辺では水質汚染や人口減少等の問題があげられています。

このイベントに、今年も本学から大東研究室が参加。全国13の大学から集まった52人と共に自然体験や地元の方々との交流、グループディスカッションやプレゼンテーションなどを行いました。

参加した川崎君のチームは、観光客や地元の

方たちに簡単な水質検査をしてもらい、環境保全の大切さや調査に参加する満足感を知ってもらおうと「サイエンス・エコツアー」を考案し、プレゼンテーション。その川崎君が「環境」に興味を持ったきっかけや、今回のイベントを行うまでの苦労、イベントを通して感じたことなどが、9月8日(火)・15(火)・22(火)の3回にわたり、中日新聞「学生の新聞」ページに掲載されました。

また、このイベントの様子は9月6日(日)の福井新聞でも紹介されました。



▲閉会式後に



▲中日新聞(9月15日)



環境デーなごや2009 中央行事に今年も出展

9月20日(日)、栄の久屋大通公園で環境デーなごや2009が開催されました。これは、大人から子どもまで気軽に参加でき、楽しみながら環境問題を考えるイベント。本学は毎年参加しており、今年



▲リサイクルフラワーボトルを製作している様子

は「リサイクルフラワーボトル工房」上、「学生環境サミットの展示」を出展しました。「リサイクルフラワーボトル」とは500mlと280mlのペットボトルの再利用を目的としたもので、家庭でも簡単に作れるものです。作成体験をした方からは「こういう再利用の仕方もあるんだね」「家でも作ってみるね」などの言葉をいただき、地域の方との交流を深めると共に環境に対する意識の向上にもなったのではないかと感じました。

「学生環境サミット」とは、「人と地球の付き合い方」をテーマに全国の大学生が集い、現地の自然を体験しながらワズ・ユース(賢明な利用)のあり方や地域振興を模索していく場のことで、展示には多くの方が関心を寄せていました。

工学部 ロボティクス学科

西堀賢司 研究室

「TPMプラザ2009 からくり改善くふう展 in NAGOYA」に 大学初出品

10月21日(水)、22日(木)の2日間、ポートメッセなごやで「TPMプラザ2009 からくり改善くふう展 in NAGOYA」が開催され、西堀研究室が出展しました。

このイベントは、企業が中心となり、製造現場で働く方々が日々困っていた不具合について、自ら考え手づくりで改善したLCA(ローコストオートメーション)の現物やモデルを一堂に集めて展示・紹介するもの。そこへ今回、大学初出品となる本学のからくりロボット「空中ブランコロボット」を出展。企業に聞かれるなか、大学生らしいアイデアと、遊び心溢れるからくりロボットを紹介することができました。

また、同時開催の「からくり改善 一点自慢発表会」では、西堀教授が「空中ブランコロボット」の誕生したきっかけ、自慢したいポイントはココ!等の、からくりロボットが発想からカタチになるまでのストーリーをプレゼンテーションしました。



◀西堀教授④



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

高木基充 研究室 「第18回 SAVE MEポスター展」に出展

グラフィックデザインを学ぶ中部の大学・短大・専門学校生たちのポスター展「第18回 SAVE ME ポスター展」が10月28日(水)～11月2日(月)、国際デザインセンターで開かれ、高木研究室の学生たちが出展しました。

この展覧会は、地球環境の保全・絶滅寸前の動物たちを守りたいという想いをポスターにして訴え続けてきたもの。高木研究室の学生たちも一人ひとりそれぞれの思いを込め、今考えなければいけないことをカタチにしました。



▲学生たちが出展したポスター

地下鉄駅コンコース・ホームが、 本学学生のアートギャラリーに

名古屋市交通局より、地下鉄駅構内を「潤いある、デザイン空間」の場として、環境整備したいとの要請がありました。芸術性のある作品を掲出して、ギャラリー化したいというもの。

そこで、本学のメディアデザイン専攻の「学生作品」より、この趣旨に適したデザインアートを選出。下記のとおり掲出されています。

- 掲出期間／2009年8月1日(土)から2010年3月31日(水)まで
- 掲出場所／栄駅(名城線) 14点
金山駅 4点
千種駅 3点
久屋大通駅 2点
ナゴヤドーム前矢田 2点



▲東山線千種駅



▲名城線栄駅

*地下鉄をご利用された際、もしお時間がありましたら、どうぞ、学生たちの作品をご覧ください。

工学部 機械工学科 先端機械工学専攻

堀美知郎 研究室 燃料電池を自分たちでつくってみよう!

8月25日(火)、常滑市にある「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア」で燃料電池製作体験を開催しました。

夏休みの自由研究の題材として多くの小中学生が参加しました。保護者の方、参加者の弟妹も参加しました。

前半の燃料電池についての講義では専門用語が出て戸惑いを見せる小学生もいましたが保護者に解説してもらい必死に書き留めている姿を見ることができました。

後半の製作体験では子どもたちの目が輝き、手元の製作手順を見ながら夢中になってセルを組み立てていました。隣に座っている幼稚園の弟や妹も見よう見まねで一緒に製作に取り組んでいました。付き

添いの大人たちも必死です。自分で作った燃料電池の発電実験では、見事にプロペラを回すことができた子、失敗してしまった子それぞれですが、十分に楽しみ、また燃料電池について学んできました。

最先端技術に触れたということ、失敗も経験の一つ。子どもたちの今後の人生において良い刺激になればと願います。

親子揃ってのモノづくり。親子共に今回を通じてさらに親子関係を深めたこと、今問題となっている地球温暖化について、さらに見つめ直す機会となっただろうと思っています。



▲「燃料電池の未来」について説明する堀教授

ほりけんブログ『東海 四季便り』 「nice・ランキング」と 「アクセス・ランキング」で共に全国トップに

堀研究室(通称:ほりけん)のブログ『東海 四季便り』が、So-net ブログ「趣味・カルチャー」部門の「nice・ランキング」と「アクセス・ランキング」で共に全国トップに躍り出ました。

ほりけんブログ『東海 四季便り』は、堀教授が立ち上げ、大同大学の

キャンパスの紹介や堀研究室のイベント、堀教授の趣味や大同大学アップル農園の話などを話題に日々更新されています。

アクセスはコチラ!!

http://horikengardening.blog.so-net.ne.jp/



▲ほりけんブログ

工学部 機械工学科

土田 豊 研究室
瀬戸知望さん(大学院 1年)

ドイツで開催の国際学会「8th international Conference on Magnesium Alloys and their Applications」で発表

10月26日(月)～29日(木)にドイツのワイマールで開催された国際学会「8th international Conference on Magnesium Alloys and their Applications」で、瀬戸さんが論文発表を行いました。

この学会にはドイツ、イギリス、オーストラリア、スペイン、中国など16カ国が参加。参加者300人を超える大きな学会となりました。

海外に行くのも学外発表も初めてのため、非常に緊張したという瀬戸さん。特に英語は苦手と感じていたため、6月からアップルケア

センターに通い、大嶋先生に指導してもらいながら英語の基礎勉強および発表のスライドと原稿の作成を行ったそうです。

そして瀬戸さんの発表日である28日を迎え、「Fatigue Strength of AZ31 Magnesium Alloy in Various Conditions and Their Unification」と題して発表。「いろいろな人に発表練習を見てもらいアドバイスをいただいたので、本番では大きなミスもなく発表することができました」。

今回の学会発表を通し瀬戸さんは、「視野や考え方が広がり、未熟な部分や自分に足りない部分を発見できた」そうです。そして、それと同時に「自分たちが行っている研究が海外にも通用することがわかった。今後、研究していることに対して誇りを持ちながら取り組んでいきたい」と自信もついた様子。

「住んでいる国は違うけれども、同じ人間なのだから分かり合える部分がたくさんあることに気づけたのは大きな経験だと思います。今後も、同じ分野のことを研究している人たち



▲大きなステージで発表する瀬戸さん

とコミュニケーションをとり情報網を広くしていくこと、英語の論文をたくさん読むことなど、今回の経験を生かし、グローバルな研究者になっていきたいと思っています。

研究の指導と国際学会で発表するチャンスを与えてくれた土田教授、熱心に英語の指導してくれたアップルケアセンターの大嶋先生、応援してくれた方々、本当にありがとうございました。これからも意欲的に研究に取り組んでいきたいと思っています」。

大きく成長した瀬戸さん、今後も期待しています!



▲瀬戸さん

小林正典 研究室 シンガポールで開催された 「第2回アジアバイオマテリアル会議」で発表

会場：シンガポール国立大学 日時：2009年7月26日(日)、27日(月)

- 発表テーマ
服部竜太(大学院 2年)
「形状記憶合金を用いた脊椎圧迫骨折の復元についての基礎研究」
- 立松尚絨(大学院 2年)
「擬似体液中で生体活性チタン合金表面でのハイドロキシアパタイト析出における低出力超音波パルス照射距離の影響」

教授からこの学会発表の話の聞かされたとき、「学会発表の経験ゼロ、英語力皆無の自分でもできるのだろうか」と悩みましたが、今しか出来ない経験!と思い、必死に取り組みました。翻訳ソフトをフル活用し、小林教授にアドバイスをいただきながら、発表資料を完成させました。当日は、教授の力を借りつつも、質疑応答をそつなくこなすことが出来、無事にシンガポールでの発表を行えました。

しかし、宿泊ホテルなどでうまくコミュニケーションがとれずに歯がゆい思いをし、コミュニケーション手段として英語の必要性を改めて実感しました。これを機会に、英会話のスキルを磨いていこうと思います!

学生生活残りわずかですが、これからも今しか出来ないことに果敢に挑戦し、思い出作りに励んでいきます!

シンガポールは綺麗な国でしたが、少し蒸し暑かった…。

野田 卓 研究室(工学部 機械工学科) 西堀賢司 研究室(工学部 ロボティクス学科) 大東憲二 研究室(工学部 都市環境デザイン学科) 堀川エコロボットコンテスト2009 2チームエントリー、 みごと特別賞に輝く!

8月23日(日)、「堀川エコロボットコンテスト2009」が、熱田区白川公園周辺で開催されました。

本学からは、毎年参加している、大東研究室の「CEED-DAITO」と、今回が初挑戦の野田研究室と西堀研究室がコラボレートした「R&M」が参加。

「清流の再生を夢の技術で!」を合言葉に、およそ50体のロボットが集まり、にぎわいました。

CEED-DAITO は、凝集剤でヘドロを沈降させる、ヘドロ水浄化ロボット「ヘドロ水浄化ロボットウォーターエコ4」で、課題部門(水質浄化)に参加。名古屋市上下水道局長賞を受賞しました。

また、R&Mは、ビックボンボン船の上で楽しく動くポニョ型ロボット「ポニョボン丸」で、一般部門に参加。名古屋港管理組合賞を受賞しました。



▲R&M ポニョボン丸



▲CEED-DAITO表彰

トコトン先生
大活躍!澤岡 昭 学長
中日新聞連載
『宇宙は手の届くところに』

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる「宇宙は手の届くところに」が、6月より中日新聞で連載されています。

9月に掲載されたミッション4「宇宙食の話」では、飛行士がシャトルへ持参できる“ボーナス食”と呼ばれる特別食に、毛利衛飛行士が日本製のカレーライスを持参し、同乗の飛行士に評判が良かったことなど、おもしろいエピソードが紹介されています。

こちらの連載は、来年5月までの1年間、毎月第4木曜日に掲載されます。ぜひご覧ください。



7月23日(木)ミッション2	アポロ月面着陸の話
8月27日(木)ミッション3	宇宙船のトイレの話
9月24日(木)ミッション4	宇宙食の話
10月22日(木)ミッション5	月探査衛星「かぐや」の話
11月26日(木)ミッション6	向井千秋さんの話



▲中日新聞(9月24日)

『メカトロテック ジャパン 2009』で講演

10月14日(水)から17日(土)まで、ポートメッセなごやで開催された「メカトロテック ジャパン 2009」の特別セミナーで澤岡学長が講演しました。

このイベントは、モノづくりをリードする中部地区で、工作機械およびその関連製品などを展示紹介し、国内外における商取引の拡大と製造技術の更なる高度化を目的に開催している

もの。4日間を通し、9万人を越える来場者となる大きなイベントです。澤岡学長は、「宇宙」がテーマの特別セミナー2日目に参加。「日本の技術で、日本人を宇宙へ!」と題して講演しました。

ガンダム誕生30周年記念
関連イベントに出演

7月24日(金)から3日間にわたり名古屋市港区のポートメッセなごやで開かれた「生誕30周年祭 in NAGOYA ガンダム THE FIRST～未来創造の世紀へ～」の初日イベントのトークセッション「未来へつなぐガンダムDNA～名古屋ロボットサミット～」に澤岡学長が出演しました。

このイベントはロボットアニメの代表作「機動戦士ガンダム」誕生30周年を機に名古屋テレビ放送が開いたもので、澤岡学長以外の出演者は、ガンダム産みの親である富野由悠季監督と科学技術ジャーナリストの赤池学さん。トークセッションは、地元の次世代産業としてロボット産業、宇宙航空産業などに照準が合わされて



いるため、ロボット開発にも影響を与えたガンダムのDNAを未来につなぐことを狙いに開かれたもので、今回のイベントで一番、硬派の存在。澤岡学長は、長年、宇宙環境利用開発に携わると同時に、宇宙基本計画の策定にもかかわっている立場から、現在、検討されている月面探査で人型ロボットと機能ロボットのどちらを利用するかを論議されていることを紹介、これを軸に展開しました。

3人は、人の形をしているロボットを月に送ることは、月を身近に感じさせ、厳しい宇宙環境の中で宇宙飛行士への癒しにもなることで基本的に意見が一致。そして、日本列島の中央に位置するこの地域で、ロボット産業や宇宙航空産

業などを中心とした多様な生物に学ぶモノづくりを目指すことの必要性が強調されました。

最後に、冒頭、紹介された若者8000人へのアンケート調査で、66%が未来は悪くなるとしている状況に対して、「未来は明るいし、頑張れば必ず明るくなるので、自信を持って切り開いて行こう」と参加者に呼びかけて、終了しました。

塾長を務める
『賢材塾』で講演

最先端の技術を理解できる経営者、経営を理解できる技術者を養成するための講習会「賢材塾」が、岐阜県土岐市の核融合科学研究所で行われ、澤岡学長が初日の講師を務めました。

この講習会は、8月20日(木)から30日(日)までのうち5日間の日程で、大学教授による講義や事例研究を通して「技術を生かした経営」を学ぶ。初日は賢材塾長でもあり、宇宙開発事業団(現宇宙航空研究開発機構、JAXA)で勤務経験のある澤岡学長が講師を担当。国際宇宙ステーション計画の概要や、日本人宇宙飛行士の活躍について解説しました。

CBCテレビ放送
『さわやか対談』に出演

7月23日(木)、東建多度カントリークラブ・名古屋(三重県桑名市)で、毎週日曜日6時15分から、CBCテレビで放送されている『さわやか対談』の収録が行われました。

ゲストは、本学学長であり、長年宇宙開発に関するさまざまなプロジェクトの推進役として活躍している、澤岡学長。

高大なカントリークラブを背景に、収録はスタート。司会は、『CBCニュースワイド』の初代キャスターを20年以上にわたり担当された、日比英一さん。心地のよい名調子で、収録を展開されました。



話題は澤岡学長の「幼少時代の挫折と転換」「人との出会いから導かれた、転機」「宇宙、そして大同大学への熱い思い」「世界最高齢の宇宙飛行士になるための、秘策」などなど、エピソード満載の収録となりました。

最後に澤岡学長が「好きなこと、長く続けられることを早く見つけて欲しい。そうすれば、毎日がワクワクです!」と若い人たちへメッセージを送りました。

このさわやかで賑やかな模様は、8月30日(日)午前6時15分～30分に放送されました。



▲収録の様子

NHKラジオ
『私も一言! 夕方ニュース』に出演

国際宇宙ステーションで日本人初の長期滞在を終えた宇宙飛行士若田光一さんを乗せたスペースシャトルエンデバーが7月31日(金)、アメリカフロリダ州のケネディ宇宙センターに着陸しました。その若田さんが完成させた日本の実験棟「きぼう」の計画段階からかわり、宇宙開発に詳しい澤岡学長が「私も一言! 夕方ニュース」(NHKラジオ第1月～金曜日午後5時～6時50分放送)に出演しました。

澤岡学長は、7月23日(木)と8月3日(月)の放送に出演。



7月23日の放送では、日本が独自の実験棟を持った意義や今後行われていく実験について、また、その中でどんな成果が期待されるのかなどを話しました。

8月3日の放送では、若田さんが帰還したことについて身体のことやこれからのリハビリの話などを心配しながらも語り、膨大な資金が必要な宇宙開発の現状も話しました。また、リスナーからのメールやFAXでの質問にも回答。「宇宙飛行への夢は膨らんでいくが、実際のところCO2排出量の問題等があるのではないか」という質

問に対し、「今の段階のスペースシャトルではCO2を排出している。しかし、日本のH-2ロケットは水素と酸素を燃料に使っているので、CO2の排出は抑えられる。今後は全世界でこのようなクリーンなロケットを目指していく予定」と回答しました。

最後に、これからの日本の宇宙開発について澤岡学長は、「安く安全にたくさんの方が宇宙に行けるようになることを願っています」と話しました。

日本放送文化大賞の
ラジオ部門審査委員長を務めました。

10月27日(火)、民間放送全国大会(民放大会)の席上で「第5回日本放送文化大賞」の発表があり、ラジオ部門の審査委員長を務めた澤岡学長が、表彰式のプレゼンターを担当。受賞社に賞牌と報奨金(グランプリ300万円、準グランプリ150万円)を贈りました。

この日本放送文化大賞は日本民間放送連盟(民放連)が、会員各社によって質の高い番組がより多く制作・放送されることを促すことを目的に、平成17年に制定されたものです。“視聴者・聴取者の期待に応えるとともに、放送文化の向上に寄与した”と評価される番組を顕彰し、ラジオ、テレビそれぞれにグランプリ1番組、準グランプリ1番組が選定されます。

今年も民放各社から参加のあった番組を対

象に、全国7地区で地区審査が行われ、中央審査に進んだ7番組から、グランプリおよび準グランプリが決定しました。

番組のジャンルは問わず、すべての番組を候補として審査を実施すること、グランプリ、準グランプリ受賞番組については、多くの皆さんに視聴・聴取していただくために、原則として表彰から3ヵ月以内に全国放送を行うことが、この賞の大きな特徴です。



▲民間放送(11月3日)

トコトン先生
大活躍!

西堀賢司 教授 (工学部 ロボティクス学科)

21年度『地域ニーズ即応型』課題に採択

科学技術振興機構(JST)地域イノベーション創出総合支援事業において、西堀教授が提案した「伝統工芸「絞り」における括り作業のロボットによる自動化」が平成21年度の「地域ニーズ即応型」課題に採択されました。

「地域ニーズ即応型」は、研究開発型中堅・中小企業の有するニーズ(技術的課題)に対して大学や公設試験研究機関などが有する技

日刊工業新聞に掲載

『半導体位置検出素子を車部品計測に応用』

10月26日(月)の日刊工業新聞に、西堀教授の研究が大きく掲載されました。

「企業からのニーズに基づいた、半導体位置検出素子(PSD)の新しい用途を開発し、自

術シーズをマッチングさせることにより、技術的課題を解決することを目的とした、新産業の創出および地域の活性化を期待する制度です。

本年度は、全国から466件の応募があり、104件の採択課題の中に選ばれました。

すでに契約を済ませ、絞り職人の高齢化による技術伝承の困難をロボットによる自動化で乗り切るための研究が開始されています。

自動車業界から注目を浴びている。その技術とアイデアを頼って企業からの相談が絶えない」等、西堀教授の研究の成果と必要性について、紹介されています。



▲西堀教授

平博仁 教授 (工学部 機械工学科 機械工学専攻)

産総研・中部センター
ワークショップで講演

11月5日(木)愛知県産業労働センターで、産総研・中部センターワークショップ「エンジニアリングプラスチックの研究開発動向と応用展開—無機材料とプラスチックの融合化—」が開催され、平教授が講演しました。

このワークショップは、材料の適材適所への使用や低環境負荷材料・部材開発等の観点から、自動車・航空機等の輸送機器部材、電気・電

子・半導体用部材、産業資材として開発、応用が進んでいる“プラスチック”の高機能化と評価について考えていこうというもの。平教授が講師として招かれ、「航空機の複合材料構造の最近の動向と課題」と題し講演。また、当該分野で活躍する技術者および研究者らも多数招かれ、研究開発状況とその応用展開について報告するとともに今後の展望を議論しました。



▲平教授

佐藤義久 教授 (工学部 電気電子工学科)

風力発電システムセミナーで講演
地球環境にやさしい風力発電システム

5月22日(金)、5月29日(金)の2日間、クリーンエネルギーを研究している佐藤教授が新城市文化会館で風力発電システムセミナーの講師を務め、両日合計でおよそ100人の地域住民の方が集まりました。

このセミナーでは、環境都市を目指し、風力発電システムの導入を進めようとする新城市と、風力発電システムの低周波が及ぼす健康被害を懸念し反対する新城市民に対し、正しい風力発電システムの知識を持ってもらうため、中立的な立場でセミナーを展開しました。

市長の挨拶から始まり、エネルギー問題や発電システムの仕組み、風力発電の世界および日本の動向、風力発電の問題点など、分かりやす

く説明しました。

説明後、「風力発電の種類によるメリット・デメリットはあるのか?」「外国ではなぜ成功しているのか?」などの質問があり、活発な意見交換が行われました。

最後に佐藤教授は、「諸外国では、地域の人たちが資金を出し合って発電システムを製作し、自分たちの電気を自分たちでつくっている、これが当たり前。日本でも、市民をプレイヤー(中心)にして、クリーンエネルギーの関心を高めて欲しい」と締めくくった。

セミナー終了後は、風力発電の事業展開が予定されている作手地域の視察も行われ、佐藤教授も同行しました。



▲講演する佐藤教授



▲作手地域視察の様子



▲講演する堀教授

堀美知郎 教授 (工学部 機械工学科 先端機械工学専攻)

堀先生、母校に帰る。

7月13日(月)、四日市工業高等学校体育館に、全校生徒920人、校長先生始め、全教職員、更には同窓会会長らが一堂に会し、講演会が開催されました。

講演者は、堀教授。四日市工業高等学校は堀教授の母校だ。

「燃料電池の扉を開く!燃料電池の今」と題して、燃料電池の原理や用途、その開発の最

トコトン先生
大活躍!

先端の現状について紹介。

また、工業高校を卒業してからどのように社会に貢献していけばよいかなど、企業や大学で先端的の研究開発に携わってきた経験を織り交ぜながら、後輩たちへ先輩として、熱のこもったメッセージを送っていました。

笠嶋 泰 教授 (工学部 建築学科)

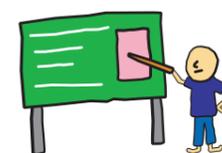
東海市議員研修会で講演

10月14日(水)、東海市議会 第1・2委員会室で議員研修会が開かれ、講師を笠嶋教授が務めました。

近年、住宅地における近所づきあいは、極端に薄れつつある。この傾向は、都市化が進むほど、平和が続くほど、新しい街であるほど、強くなる。しかし、地震災害等の非常時に遭遇すると、その必要性が叫ばれるのが常である。

本講演は、「近所づきあいの空間学」と題し、近所づきあいが希薄であったために生じた悲劇を幾つか紹介した後、「住宅地の形と近所づきあい」の関係を解説し、最後に、近所づきあいを促す空間事例を数多く紹介しました。

受講者は、東海市議会の議員全員と教育委



▲講演する笠嶋教授

員会メンバー、市幹部、あわせておよそ50人。「防犯に近所づきあいが極めて有効であることが良く分かった」、「建築のつくり方や街のつくり方も近所づきあいに大きく関係することが分かった」、「緩やかな近所づきあいがやっぱり必要であることを確かめることができた」等、講演後の質疑も活発に行われ、本講演への興味と期待の強さがうかがえました。



▲講演研修会の様子

大東憲二 教授 (工学部 都市環境デザイン学科)

土壌・地下水汚染対策セミナーで挨拶

8月4日(火)、メルパルクNAGOYAで愛知土壌・地下水汚染対策研究会主催の「土壌・地下水汚染対策セミナー」が開催されました。

愛知土壌・地下水汚染対策研究会は、地元の企業、大学、自治体を中心として、事例研究などを通じ土壌・地下水汚染対策に関する研

究を行っている組織。今回のセミナーでは、研究会会長でもある大東教授が挨拶を務めました。



▲講演する大東教授

土壌環境セミナー2009で基調講演

11月4日(水)、メルパルクNAGOYAで土壌環境セミナー2009「土壌汚染対策最前線」が開催され、大東教授が基調講演しました。

このセミナーは、来年4月から施行される改正土壌汚染対策法における“土壌汚染対策”に関する規制の強化・厳密化に伴い、土壌汚

染に関心のある企業経営者、不動産開発会社、コンサルタント等を対象に土壌汚染対策の“最前線”について情報提供するもの。この中で大東教授は、「最新事情を知る!」と題し、名古屋市における土壌汚染の現状や、法改正のポイントなどを講演しました。

トコトン先生大活躍!

宇野 享 教授 (工学部 建築学科)

文部科学省 公立文教施設担当職員研修会で講演

10月7日(水)から9日(金)の3日間、文部科学省旧文部省庁舎第二講堂で平成21年度 公立文教施設担当職員研修会が開かれました。

宇野教授は10月8日(木)、「今後の学校づくりについて」をテーマに、自身が設計した4つの学校(千葉市立打瀬小学校・ぐんま国際アカデミー・幕張インターナショナルスクール・沖縄アミークスインターナショナル)を通じたこれからの学校建築(先進事例)に関する講演を行いました。また、翌

日には「幕張インターナショナルスクール」の視察も行われました。

宇野教授は、日本の幼稚園・小・中学校における英語教育、IT化等の先進事例を3校続けて設計している建築家として、今回文科省が指名。「幕張インターナショナルスクール」は、QBS(資質評価方式)プロポーザルコンペで一等、「沖縄アミークスインターナショナル(設計中)」は、公募型プロポーザルコンペで一等を取ったプロジェクトです。



▲▼宇野教授が設計した幕張インターナショナルスクール



田中秀和 教授 (情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

日本技術士会第36回全国大会で 司会・コーディネータ・パネリストを務める



「社会の安全・安心と技術士の役割-未来創造、東北から発信」をテーマに、日本技術士会の第36回技術士全国大会が、10月15日(水)16日(木)の2日間、仙台市の仙台国際セ

ンターで開かれ、全国から604人の技術士が参加しました。

田中教授は15日午前、技術者倫理研究事例発表大会(参加者:216人)で総合司会・コーディネータ・パネルディスカッションの司会を。

16日午前は、第5分科会のコーディネータとして、導入部のプレゼン・会の進行・まとめを担当。(テーマ:中立公正の堅持と自律的な規範、

参加者:60人)

そして午後は本大会の目玉となる、総合シンポジウム(参加者:395人)にパネリストとして参加しました。

この模様は、10月19日(月)・20日(火)の建設新聞に掲載され、田中教授の発表も紹介されました。

大石弥幸 教授 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

世のなか見晴らすきっかけマガジン「L25」(夏休み特別号)で 秘訣を伝授

騒がしい飲食店で「すみませ〜ん」と店員さんと呼んでも一向に気付いてもらえない…

そんな時、「気付いてもらうための秘訣」を、音響学の研究をしている大石教授が伝授。「気をひく&騒音に負けないことが重要!まず店員さんにこっちを向いてもらうことを第1に心

かけ、そのうえで「っ」などのつまる音や、ア行で言葉をのばすとより効果的」とアドバイスしました。



▲小森准教授

小森和武 准教授 (工学部 機械工学科 先端機械工学専攻)

『平成21年度第1回 技術シーズ発表会』

10月19日(月)、名古屋栄ビルディングで東海ものづくり創生協議会主催「平成21年度第1回 技術シーズ発表会」が開催されました。

この発表会は、平成20年度に中部経済産業局を事務局とし、産学官連携に携わる10の機関が共同で大学、公設研究機関等から技術シーズを収集、刊行した「平成20年度版 中

部の技術シーズ」の中から「材料」に関するテーマを選び出し、大学等の技術シーズを基に新事業・新製品の開発を考えている方々を対象に紹介するもの。

今回は8つの大学、研究所等が選ばれ、本学からも小森准教授が「金属材料の延性破壊予測技術」をテーマに発表しました。

萩原伸幸 准教授 (工学部 建築学科)



『まちなか施設』パネル巡回展示

7月20日(月)から7月31日(金)まで、本学滝春キャンパスE-F棟の渡り廊下で「まちなか施設」デザイン提案コンペでの優秀作品パネル展示を行いました。社団法人日本膜構造協会が実施したコンペの優秀作品60点(A1サイズ)が展示され、廊下を行く人の注目を集めていました。このデザインコンペは学生の発想の重要性やプレゼンテーション技術のレベルを知る機会として大学関係者の注目を集めました。

建築学科1年の学生に展示作品について感想を聞いてみると、「独創的な作品が多くと

ても参考になった。非常に大規模な屋根があってもしっかりと採光が確保されており、また空間がとて広く感じられる作品が多かった。自然や緑を活用した作品はこれからの都市計画に必要な要素を意識していると思う。自分もこんな作品を考えたい。」と希望に満ちていました。

今回の展示企画は私たち学生にとっても刺激となりました。これからもこのような企画・機会を増やしていければ、建築を専攻する学生全体の技術向上に繋がると思います。



▲パネルが展示されたE-F棟渡り廊下

鷺見哲也 准教授 (工学部 都市環境デザイン学科)

朝日新聞

『伊勢湾台風50年～半世紀の教訓～』



伊勢湾台風から50年経った今、「早めの避難」が当時の大きな犠牲から得た教訓でもあります。しかし近年、避難勧告の時期と方法をめぐる深

刻な事態が相次いで起きています。

今年8月に兵庫県で死者・行方不明者20人の被害が出た台風では、その多くは避難途中で被災したと見られています。また、岡崎市では昨年8月、猛烈な雨により伊賀川があふれ、市

は37万人全市民に避難勧告を出すパニックに陥りました。それらの現状を、「勧告を出す側も、受ける住民も、お互いよくわからないまま避難勧告をとらえている」とした鷺見准教授のコメントが、9月23日(水)の朝日新聞に掲載されました。

大同大学大同高等学校 文化祭

『ボランティア委員会特別企画』講演会で 講師を務めました。

10月3日(土)、大同大学大同高等学校 カンファレンスルームで、「ボランティア委員会特別企画」講演会が開かれ、鷺見准教授が講師の

依頼を受け、担当。「伊勢湾台風の足跡を訪ねて」と題して、講演しました。



▲講演する鷺見准教授

朝倉宏一 准教授 (情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻)

第8回 情報科学技術フォーラム2009 『FIT論文賞』受賞

日本の情報科学分野最大の学会大会である「第8回情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)2009」で、朝倉准教授が「FIT論文賞」を受賞しました。

この学会大会は、電子情報分野で国内最大の2つの学会(情報処理学会・電気電子通信学会の情報・システムサイエンスとヒューマンコミュニケーショングループ)の共催で、年1回開催されているもの。

今回受賞した論文は、朝倉准教授の元指導学生 森裕一朗さん(名古屋大学修士2年)、恩

師でもある渡邊豊英教授(名古屋大学教授)、朝倉准教授でまとめた「タスク割当てアルゴリズムにおける消費電力削減のためのDVS適用タスク選択機構」。たくさんのプロセッサやコアを使う並列処理において、プログラムの処理速度を低下させることなく、プロセッサの消費電力を抑えるための仕組みを開発。複数のプロセッサを使う並列処理の場合におこる処理待ち状態を解消するため、最初からプロセッサのスピードを落として(消費電力を抑えて)しまえばよい、というアイデアです。



▲朝倉准教授

トコトン先生大活躍!

光田 恵 准教授 (工学部 建築学科) 「Allen」(7月10日号)にインタビュー掲載

朝日新聞折込月刊フリーペーパー「Allen」(7月10日号)に光田准教授のインタビューが掲載されました。

来年度新設予定の「かおりデザイン専攻」。全国初ということもあり、さまざまな分野から注目



されているようです。インタビューでは、光田准教授が「かおり」に関心を持ったいきさつや、近年注目が集まっているアロマテラピーや芳香剤の危険性や問題点、また、「かおりデザイン専攻」のこれからの教育スタイル等が話されました。



▲Allen(7月10日)

松井豊次 准教授 (教養部 外国語教室) 世界で最も権威ある紳士録

『Marquis Who's Who in the World』に掲載



世界で最も権威ある紳士録とされる『Marquis Who's Who in the World』に松井准教授が掲載されることになりました。

この紳士録は、米国の出版社による著名人の略歴を掲載した年鑑版紳士録です。掲載候補者は世界各国の調査員によって、国際的に著名である人物などが重点的に選出されます。これに加えて、極めて独創性が高い芸術的・学

術的創作活動、顕著な社会的活動を行った人物、とりわけ理工系の科学者も重視される傾向にあります。松井准教授は、長年に渡る英語教育現場での実践が評価されての掲載。世界各国の大学図書館や企業が所蔵したり、オンライン版へのアクセス権を取得したりするなど、215カ国・およそ6万人の人物情報が収録されています。

井藤隆志 准教授 (情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

NAGOYA DESIGN WEEK 2009に参加

中部を代表するメーカーやインテリアショップを中心に、中部地区のデザインやモノづくりを文化として捉え、それら地域文化の活性化を目的とし2005年より開催されているイベント「NAGOYA DESIGN WEEK」。5周年にあたる2009年は、さらに内容を拡充させ、行政・企業・大学なども連携し、市民一人ひとりが参加できる名古屋圏域、最大のモノを目指し、10月14日(水)に開幕。18日(日)まで展開されました。

井藤准教授は、その実行委員会「自分の街のデザインをよその誰かにまかせておけない委員会」のメンバーとして、参加。

メインイベントである中部経済産業局主宰の地場産業と学生、若手デザイナーを繋げるワークショップ「CHUBU×DESIGN×NDW」のプロデューサーとして参加し、有松・鳴海綾、美濃和紙の産地とのデザイン開発を指揮。期間中、公開プレゼンテーションとデザイン講演会をナディアパークにおいて開催しました。

また個人展示として「Ephemeral Form (ハカナイカタチ)」をテーマにチョコレートのデザイン展示を大須で開催しました。



▲デザイン講演会に参加する井藤准教授(左から二人目)

新任教員 紹介



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 講師 渡部 裕子

2009年10月より情報デザイン学科に着任いたしました渡部裕子です。いままでデザインの専門学校で勤務し、アナログで文字をデザインするという仕事も長年続けてきました。

文字のデザイン(タイポグラフィ)は、文字の歴史からその形の美しさを追求したり、文字そのものの可能性を実験的に変形させることで、広がりのある情報伝達の役目をも担う素晴らしいエレメントデザインです。「読んでわかる」(言語的)と

いう役目と、伝えたいことを「見て感じる」(感覚的)という役目を、美しいデザインの中に落とし込むこと。また、文字というデザインを構成する要素の一つにきちんと向き合うことで、主観性や客観性、また、時代や状況を読む勘をも養うことができるでしょう。モノが溢れ、嗜好が多様化しているいまの時代、皆さんの瑞々しい感性と発想力で、新たな可能性を追求するお手伝いをさせていただきたいと思っています。

『大同大学応援歌はこうして誕生した。そして今後・・・』

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 川戸和英



▲学園創立70周年記念講演会終了後の会場で初披露されました。

6年半前、大同工業大学(当時)にお世話になって一番先に驚いたのが、大学の「歌」としては大学歌しかなく、応援歌、逍遙歌、学生歌といったほかの大学なら数ある歌が全くないことでした。しかも折角ある大学歌を歌える教職員がホンの数名しかいないこと、入学式や卒業式で吹奏楽団が演奏しこそすれ、学生たちが歌う機会は全くなく、歌える学生はゼロどころか、

あることすら知らない学生がほとんどだったことに幻滅しました。大同には、大学歌の何たるかの認識がないことに驚きました。そして学生時代に作曲経験の豊富な片岡智幸さん(現学生室長)とせめて応援歌を作りたいと話合っていました。

昨年11月下旬のある夜半、床についた途端に、応援歌の詩がソファ〜と頭に溢れてきました。大同にお世話になっている中で、学生、教職員、同窓生と大同関係者全員を応援したいという思いが詩を生んだのだと思います。それを翌日出動しておよそ30分で作詞を仕上げ、片岡氏に渡しました。その詩に片岡氏が苦勞して作曲、それを本学吹奏楽団初代団長の塚本浩氏の編曲で、本年6月27日に披露の運びとなりました。

大学歌も応援歌も、大学の教職員、学生、同窓生をひとつに結ぶことのできるシンボルなのです。アイデンティティです。その歌を歌うことに

よって大学関係者誰もが、学生、教職員、年齢、性別、出身学部、配属部署などを超えて想いや青春時代を共有できるものです。私の専門用語でいえば、「大学歌や応援歌は、関係者に大学への誇りや愛を芽生えさせる有力なコミュニケーションツール」なのです。

来年3月で定年を迎える身としては、とりえず応援歌は間に合いました。将来、大学歌と応援歌に加えて多くの大同大学の歌が生まれ、それらが末永く歌い続けられ、大同大学への連帯意識や誇りが脈々と継承されたならば、こんな嬉しいことはありません。自分たちの勉学や進路について悩みをもつ学生も少なくない事実を直視しながら、その不安を少しでもよい方向へ導くことができる大学歌、応援歌として育てていただくことを切に期待します。

大同大学応援歌

作詞 川戸和英、作曲 片岡智幸、編曲 塚本浩

一、 港の風を 背に受けて
若き戦士が 起り来る
中部の礎 担うべく
鍛えし 技と情熱を
いざ ここに 示さん 堂々と
大同 大同 大同 大同
輝く勝利は 我ら大同の手に

二、 誰にも負けぬ 志
若き戦士は 火の玉に
目標高く 世の中に
先達 築き 栄光を
いざ ここに 手にせん 堂々と
大同 大同 大同 大同
輝く栄冠 我ら大同の手に

三、 時の重みを 噛みしめて
若き戦士が 切り拓く
尾張の明日の 繁栄を
目指した 研鑽 実るとき
いざ ここに 手にせん 堂々と
大同 大同 大同 大同
輝く未来 我ら大同の手に



中日本自動車短期大学との編入学に関する協定を締結

中日本自動車短期大学との協定締結についての調印式を8月26日(水)、全日空ホテルズ ホテルグランコート名古屋 6階「ときの間」で行いました。

本年度設置された3年制の自動車短大の国

泰日工業大学(海外提携大学) 学長一行が来学

10月20日(火)、タイの泰日工業大学から、クリサダ学長、ルーキアット工学部長、水谷講師の3名が、本学を訪問、本学からは澤岡昭学長、井上茂樹副学長、水澤富作副学長のほか戦略的学等連携室の近藤邦治コーディネータ、天池公一学務室長が対応し、来年3月に計画されている泰日工業大学生の春季集中実習講座の本学での実施計画の打ち合わせを中心に、今後の両校の関係強化に向けた打ち合わせを実施しました。

際自動車工学科は留学生を多く受入れており、相当数の留学生が4年制大学の卒業資格を得ることを希望している。この学生たちを受け入れ、本学の留学生教育の充実を図ります。

平成24年度と25年度に試行。

集中実習講座の打ち合わせは、本学学生の实習講義時間に合わせて実習センターの見学を兼ね、現場重視の打ち合わせをした結果、泰日工業大学一行は、本学の実習カリキュラムに大いに満足された様子でした。また、本学内の見学では、プロダクトデザイン実習室、燃料電池研究センターなど、本学の積極的な取り組みに対し大変興味を示されており、今後、更なる両校の交流に発展が期待される打ち合わせとなりました。

平成21年度 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

『キャリア形成を目的とした資格取得支援講座・就職対策講座の実施』が採択されました。

このたび、平成21年度 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに、本学の就職支援に関する取り組みが採択されました。

このプログラムは、全国の大学・短期大学等における学士力の確保や教育力向上のための取り組みの中から、達成目標を明確にした効

果が見込まれる取り組みを選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことで、日本の高等教育の質保証を強化していくことが目的です。

本学は「キャリア形成を目的とした資格取得支援講座・就職対策講座の実施」が採択されました。



▲澤岡昭大同大学長 (左) 山田弘幸中日本自動車短期大学学長 (右)



▲クリサダ学長(前列、左から二人目) 井上副学長(前列、右から二人目)

これは、大学教育での専門知識の習慣に合わせ、社会が求める人材「社会人基礎力」の一環として、学生個々にさまざまな側面からの付加価値を与え、創造性豊かな思考力と幅広い分野に積極的に挑戦する姿勢と能力を養い、「応用力を發揮し、自己のキャリアプランニングを形成する」ための支援を目的とした取り組みです。

『AERA』(10月12日号) 『週刊ダイヤモンド』(10月31日号)より



▲AERA(10月12日号)



▲週刊ダイヤモンド(10月31日号)

朝日新聞出版「AERA」の“不況でも就職に強い大学特集”に本学が紹介されました。地元企業にしっかりしたパイプを持つ本学。「素直で性格の良い大同生が欲しい」という企業の声は非常に強く、本学も長年にわたり、それに応えてきました。不景気で企業の求人が減り、有名大学が急にアプローチしてきても、企業側が「ウチは長年、大同とつながりがあるから」と断ることもあるといいます。「ウチは偏差値の高い大学ではありませんが、出口(就職)には入り口(入試)ほどの差はありません」というキャリア支援室 肥田聡さんのコメントと共に「企業系大学の“底力”」が紹介されました。

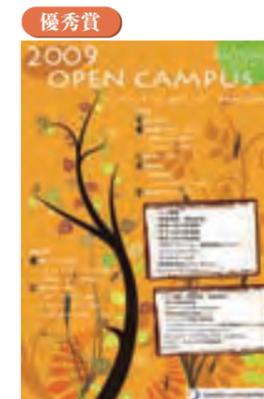
また「週刊ダイヤモンド」にも“高就職率を誇る企業系大学特集”として紹介されました。

「オープンキャンパス 秋 2009」ポスターデザインコンペ開催

秋のオープンキャンパスに向け、本学学部生・院生対象にポスターデザインコンペを開催しました。総応募作品数24点の中から最優秀賞、優秀賞、優良賞の各1点を決定し、最優秀賞に選ばれた今井智大君の作品は、秋のオープンキャンパス用のポスターデザインとして採用。ハガキサイズからB1ポスターサイズまでさまざまなタイプで印刷され、たくさん的高校や、高校生たちの自宅に届けられました。



▲最優秀賞 今井智大君 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻3年)



▲優秀賞 伊藤史哉君 (工学部 建築学科 福祉環境専攻3年)



▲優良賞 谷口和香菜さん (大学院 情報学研究科 修士課程1年)

エコキャップ活動に取り組んでいます!

本学では、NPO法人エコキャップ推進協会主催の「エコキャップ活動」に取り組んでいます。エコキャップ活動とは、ペットボトルキャップを分別回収することにより、CO₂削減に寄与し、そのリサイクル売却益から発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを届ける活動です。昨年度より学内の25ヶ所にペットボトルキャップ回収箱を設置し、ポスター等で回収を呼びかけ、エコキャップ活動に努めてきました。

9月、本学学生会執行委員会の協力を受

け、今までの回収分をエコキャップ推進協会に送付し、無事受領されたことをここに報告します。今回は、なんと約26,000個(65kg)のキャップを集めることができました。これは、ワクチンにして子ども32.5人分、CO₂削減量にして204.75kgに相当します。学生たちの意識の高さ、協力があつてこそその結果。今後も、地球環境保護と世界の子どもたちにワクチンを届けるため、学生・教職員みんなでエコキャップ活動を継続していきたいと思ひます。



▲学内に設置した回収BOX



▲協力してくれた学生会執行委員長の学生たち

博士後期課程第一期生の青木伸浩さん、論文博士を授与されました!

本学 大学院 工学研究科 博士後期課程 材料・環境工学専攻の一期生、青木さん(平成10年3月満了/現・東海工業専門学校教諭)が、論文博士(論文題目:築窯工法とフリーハンド応用工法に関する実験的研究)を授与されました。



▲青木さん(前列、左から二人目)

パンジーで『DAIDO』

夏は朝顔、ヘチマ、ゴーヤとにぎやかだった滝春キャンパス中庭花壇。秋になり、大嶋芳康先生(学習支援センター)や学習支援センターに通う学生たちとでパンジー苗308株を植えました。日々、花壇のお世話をしている大嶋先生のギターの前は世界的に有名で、国際コンクールグランプリの実績をもつほど。8月には、本学A棟学生ホールでミニ演奏会を企画・実施し、教職員・学生を和ませました。

今年の冬は、色とりどりのパンジーで明るい花壇になりそうです。

